

・あお（奈良県）

持っている指輪を全部はめてみる  
夜を奇妙にやり過ごしている

誰との約束でもなく、願いや祈りの象徴でもない。夜をやり過ごすための、自分だけのための指輪。全部の指に輪をはめて、奇妙な夜の王のように。

・小池耕（東京都）

洗脳が階段でびちゃびちゃになる

他人の思想をコントロールするための悪意と暴力と支配。頭のなかを洗いだされながら、大掃除後の階段みたいにあられもない光を返しながら。

・うたた（岡山県）

靴下を上げたら下がる  
でも上げる  
まだ足音を続けるために

歩いているかぎり靴下は下がり続けるし、上げ続けなければいけない。どうせいつかは足音を止めるのだから、面倒だけれどもうしばらくはこのままで。

・小宮 颯人（東京都）

エアコンが静かになる瞬間に行け  
そこがぼくらの安息地になる

ふいに稼働が静止すると、真空に似た一瞬がこの部屋に訪れる。安息地はそう簡

単にはたどり着けない。けれど、「行け」という声が聞こえてくる。

・羽水繭（大阪府）

半分にオレオをひらく  
この雪はたぶんこっちの  
何もないほう

クリームのついているほうと何もないほう。オレオの半分はフェアじゃない。今日の雪は賭けでいえば負けの、特別な意味を持たない雪なのだろう。

・枝野 ほと（岐阜県）

12月25日をかき集め  
赤い葉を抜き取りましょう

クリスマスへの期待や願いや約束の赤い葉。たくさんの人々の大事な葉を抜き取ってしまったえば、クリスマスに寂しい思いをすることはなくなるはず。

・五月閉じ花（北海道）

トナカイと  
カレンダカレンダ駆けてね  
友の薬ポケットに聖夜

空を掛けるトナカイの軽やかな蹄の音は、一年の終わりの暦を疾走してゆく。薬を飲む友にポケットサイズの聖夜を贈るために。

・全美（神奈川県）

臉が重くなる新米がこぼれる  
だんだん眠たくなってくるのは、  
麦の穂の重みが臉にかぶさってくるからだろ

うか。豊かな実りの時間に心地よく覆われながら眠りのお米をこぼす。

・水嶋 理（埼玉県）

大会後しゃがみ込んだら

セブンティーンアイスは

代々木の鳩味がする

疲労と悔しさでしゃがみ込む。啞えたセブンティーンアイスの味に、地面に沁み込んだ鳩の味が混ざり合う。たぶんこれはかけがえのない味。

・鈴木たなか（京都府）

日曜のフードコートは この星で

大家族だったころの食卓

ここに集う見知らぬ家族たちのひとつひとつが恒星のようで、遠くから眺めれば銀河のようで、かつてみんなで一つの食卓を囲んでいた頃。